

第4章 〈成果と課題〉

1. 研究内容にかかわって

(1) 成果

- 学習指導要領の改訂をふまえ、今後の教育課題は何かを探りながら「研究主題」「研究仮説」の設定に取り組んだ。
その結果、研究を推進していく上での「キーワード」的な位置づけとなるものが明らかとなった。
- 教科や単元の特性を生かした単元構成の在り方が重要であり、それが「基礎・基本の定着」や「思考力や判断力」「学ぶ意欲」とつながっていくことがあらためて明らかとなった。

(2) 課題

- 「目指す子どもの姿」「研究仮説」「研究の視点」それぞれのつながりをより明確にすることで研究の推進や検証授業の構築にメリハリやわかりやすさが表れてくるのではないか。
- 日常の実践での問題点を明らかにしながら、これまでの研究との違いは何かを明確する必要がある。

2. 研究の推進にかかわって

(1) 成果

- 所員が大幅に入れ替わり、委員会の人数も増えたことから、より多くの教科から研究内容の見直しや授業像からの検討が進められた。

(2) 課題

- 日常実践の持ち寄りなど、授業を通じた検討がより進められるようにすべきである。
- それぞれが担当した研究内容にかかわり、理論研修と実践を個においても研鑽し、委員会の前に準備をしておくことが必要。
- 次年度は全体の理論の確立を進め、研究の視点ごとの小部会の設定など、研究推進体制の工夫が必要である。